

平成 28 年度 保育コンソーシアムあいち **保育士資格特例講座**

【時間割】

日程	曜日	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目
		9 : 00~10 : 30	10 : 40~12 : 10	13 : 10~14 : 40	14 : 50~16 : 20
7 月 25 日	月	保育特例講座Ⅲ①	保育特例講座Ⅲ②	保育特例講座Ⅲ③	保育特例講座Ⅲ④
7 月 26 日	火	保育特例講座Ⅲ⑤	保育特例講座Ⅲ⑥	保育特例講座Ⅲ⑦	保育特例講座Ⅲ⑧
7 月 27 日	水	保育特例講座Ⅳ①	保育特例講座Ⅳ②	保育特例講座Ⅳ③	保育特例講座Ⅳ④
7 月 28 日	木	保育特例講座Ⅳ⑤	保育特例講座Ⅳ⑥	保育特例講座Ⅳ⑦	保育特例講座Ⅳ⑧
7 月 29 日	金	保育特例講座Ⅳ⑨	保育特例講座Ⅳ⑩	保育特例講座Ⅳ⑪	保育特例講座Ⅳ⑫
8 月 1 日	月	保育特例講座Ⅳ⑬	保育特例講座Ⅳ⑭	保育特例講座Ⅳ⑮	
8 月 4 日	木	保育特例講座Ⅱ①	保育特例講座Ⅱ②	保育特例講座Ⅱ③	保育特例講座Ⅱ④
8 月 5 日	金	保育特例講座Ⅱ⑤	保育特例講座Ⅱ⑥	保育特例講座Ⅱ⑦	保育特例講座Ⅱ⑧
8 月 8 日	月	保育特例講座Ⅰ①	保育特例講座Ⅰ②	保育特例講座Ⅰ③	保育特例講座Ⅰ④
8 月 9 日	火	保育特例講座Ⅰ⑤	保育特例講座Ⅰ⑥	保育特例講座Ⅰ⑦	保育特例講座Ⅰ⑧
8 月 10 日	水	保育特例講座Ⅰ⑨	保育特例講座Ⅰ⑩	保育特例講座Ⅰ⑪	保育特例講座Ⅰ⑫
8 月 11 日	木	保育特例講座Ⅰ⑬	保育特例講座Ⅰ⑭	保育特例講座Ⅰ⑮	
8 月 18 日	木	保育特例講座Ⅲ⑨	保育特例講座Ⅲ⑩	保育特例講座Ⅲ⑪	保育特例講座Ⅲ⑫
8 月 19 日	金	保育特例講座Ⅲ⑬	保育特例講座Ⅲ⑭	保育特例講座Ⅲ⑮	
8 月 22 日	月	保育特例講座Ⅱ⑨	保育特例講座Ⅱ⑩	保育特例講座Ⅱ⑪	保育特例講座Ⅱ⑫
8 月 23 日	火	保育特例講座Ⅱ⑬	保育特例講座Ⅱ⑭	保育特例講座Ⅱ⑮	

※「保育特例講座Ⅰ」は「福祉と養護」、「保育特例講座Ⅱ」は「相談支援」、「保育特例講座Ⅲ」は「保健と食と栄養」、「保育特例講座Ⅳ」は「乳児保育」の講座名の略称です。

※時間割は変更になる可能性があります。変更になった場合は受講生にはあらかじめ連絡をします。

受講申し込み方法

①別紙募集要項をお読みいただき、基礎資格及び必要実務経験年数があるかをご確認ください

②受講申込書は下記いずれかの方法で入手していただけます。（郵送は致しかねます。）

- ・ ホームページからダウンロード後、印刷 <http://www.nagoyacollege.ac.jp/hca/>
- ・ FAX での送付希望の方は、下記申込内容を記載して FAX をご送付ください。 FAX 052-678-6165
- ・ メールでのご請求には、メール添付または FAX にて送付致します。 hca@nagoyacollege.ac.jp

③受講料をお振込みください。（振込手数料はご負担ください。）

④ご請求いただいた受講申込書に、受講料銀行振込控（原本）を含む必要書類を添付し、郵送してください。

お手元に銀行振込控のコピーを保管していただくことをお勧めします。

直接ご持参いただくこともできます。（詳細は受講申込書と一緒に送ります。）

保育士資格特例講座受講申込書請求書

ふりがな			
氏名			
FAX		電話番号	

講座名	内 容	単位数	担当講師
保育特例講座Ⅰ	福祉と養護	2 (講義)	野津 牧 (名古屋短期大学教授)
保育特例講座Ⅱ	相談支援	2 (講義)	長谷中 崇志 (名古屋柳城短期大学准教授)
			野崎 真琴 (名古屋柳城短期大学准教授)
保育特例講座Ⅲ	保健と食と栄養	2 (講義)	上野 善子 (名古屋短期大学准教授)
			小川 雄二 (名古屋短期大学教授)
保育特例講座Ⅳ	乳児保育	2 (演習)	原田 明美 (名古屋短期大学准教授)

2016 年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座

授業科目名	I 福祉と養護 ①～⑮
担当講師名	野津 牧
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

子どもと家族が抱える問題について、歴史的、国際的な問題も含めて講義という形式で学びます。

授業の到達目標

- 今日の子どもたちをめぐる諸問題と社会的な背景を理解します。
- 子どもと家族をサポートするための福祉制度や法律などの基礎を学びます。
- 子どもの権利とは何かについて学びます。
- 子ども虐待対応の基礎について学びます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

子ども関連の新聞・ニュースなどに目を通しておいください。

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

レポート及び授業態度により評価します。レポートは、講義の最終回に書いていただきます。

参考図書等

子どもの権利条約関係の書籍

その他(受講上のアドバイス等)

なによりも人権を尊重するという視点を身に着けるための授業です。また、子どもと家族を守るためのさまざまな福祉制度や施設についての基礎知識があれば、支援の幅が広がりますので、積極的に学んでください。

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など
1	8/8	貧困問題を中心とする今日の子どもと家庭を取り巻く諸問題
2	8/8	子どもの権利条約を学ぶ
3	8/8	開発途上国の子どもたち
4	8/8	福祉先進国の子どもたち
5	8/9	子どもと家族を支える福祉の制度
6	8/9	子育て支援と保育所
7	8/9	子どもたちを支える社会的養護
8	8/9	子どものための福祉施設
9	8/10	子どもと家庭福祉のこれから
10	8/10	気になる保護者・子どもへの支援-1-
11	8/10	気になる保護者・子どもへの支援-2-
12	8/10	保育施設におけるリスクマネジメント
13	8/11	保育施設における災害時の対応
14	8/11	子ども虐待への対応-1-
15	8/11	子ども虐待への対応-2-・レポート

28年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座	
授業科目名	Ⅱ 相談支援 ①～⑮
担当講師名	長谷中 崇志(①～⑧)・野崎 真琴(⑨～⑮)
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

今日、核家族化、少子高齢化など、子どもや家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てに関わるニーズは多様化し、保育士には、子どもの保育に加え、保護者を支援すべく知識や技術が求められている。本講座では、それら保護者や家庭を支援する上で必要な基礎知識や技術について理解する。授業方法は、講義、討論形式等。

授業の到達目標

- ①今日の子育てをめぐる問題とその背景や要因、求められる支援のあり方について理解する。
- ②社会福祉援助技術（主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）の基礎知識を身につける
- ③保育・社会福祉専門職に求められる価値・倫理を理解する
- ④コミュニケーションの基本的技法を身につける
- ⑤社会資源の基礎知識を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

レポート

参考図書等

その他(受講上のアドバイス等)

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など
1	8/4	社会福祉援助技術とは①
2	8/4	社会福祉援助技術とは②
3	8/4	社会福祉専門職の価値・倫理 ①
4	8/4	社会福祉専門職の価値・倫理 ②
5	8/5	コミュニケーション技法
6	8/5	社会資源の発見・活用・開発①
7	8/5	社会資源の発見・活用・開発②
8	8/5	社会資源の発見・活用・開発③
9	8/22	今日における家庭支援の必要性、意義、対象
10	8/22	家庭の意義と機能
11	8/22	社会状況の変化と子育て家庭への影響
12	8/22	現代の家族関係
13	8/23	子育て支援施策の動向
14	8/23	保育所における家庭支援
15	8/23	子育て家庭に対する様々な支援

28 年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座

授業科目名	Ⅲ 保健と食と栄養 ①～⑧
担当講師名	上野 善子
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

本講義は保育士養成課程におけるこどもの保健の内容に準じます。子どもを取り巻く現代社会の中で、子どもと家族の地域生活を支援する視点で、保健制度や政策を基盤として基礎的な知識を身につける。特に厚生労働省は、保育所内での子どもの事故防止・安全対策についての調査結果を公表し、注意喚起している。無認可保育園における事故は認可保育園の約3倍であり、乳児の睡眠中の事故が多いことが指摘されており、認可保育所は報告が義務づけられた。保育者は子どもの生命を護ることが最も重要な使命である。今年も熊本地震などの震災があり、事故や疾病以外にも、災害時における保育士の役割が強化されている。本講義では、まずは子どもの疾病や緊急時の対応について概略を述べ、災害などの際も安全を重視する判断能力を身につけるための講義として展開する。

授業の到達目標

本講座はレジュメと視聴覚教材を使用して、講義内容がイメージしやすいよう、学習目標に沿った講義展開を行う。特に、保育所保育指針と感染症ガイドラインを基盤として、保育所内で起こる病気や事故、怪我等について、簡単な医学的根拠と法的定義、保育ガイドライン等の最低限の基礎知識を定着させることを目標としている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

子どもの保健内容は、教育や福祉的な養護の視点以外にも、子どもの成長と発達を支援する視点が必要である。子どもは様々な環境に影響を受けて発達しているので、地域での家庭生活や社会の動向について、視野を広げた学習が求められる。日頃から新聞やニュース、映画などから、子どもと家族の安全や保健衛生について、身近に感じることができるようトレーニングしてほしい。

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

本講義は全講義出席が原則である。評価方法はGWの成果とミニ試験により評価する。

参考図書等

梶美穂編 『2015年度改訂版：保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ』 建帛社、2015。

*参考にされるとよい図書の紹介です。購入は必須ではありません。

その他(受講上のアドバイス等)

本講義は、特例講座の最初の講義です。まずはグループワークによる演習を通じて、みなさんが仲良くなって頂けるように工夫します。受講後は、保育者仲間と連携する機会にして下さい。

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など
1	7/25	オリエンテーション：子どもの保健政策と子ども家庭福祉
2	7/25	子どもの生活と保健：保育所保育指針
3	7/25	子どもの疾病と対応：感染症ガイドライン
4	7/25	グループワーク・発表 8G×6人
5	7/26	子どもの疾病と対応：乳幼児期における疾病と療養
6	7/26	子どもの安全と緊急時の対応：事故対策と救急処置
7	7/26	子どもの諸問題と対応：虐待・DVなど家族の問題と子ども
8	7/26	グループワーク：発表 8G×6人
9	8/18	(ここから小川雄二先生ご担当)
10	8/18	
11	8/18	
12	8/18	
13	8/19	
14	8/19	
15	8/19	
試		

28 年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座

授業科目名	Ⅲ 保健と食と栄養 ⑨～⑮
担当講師名	小川 雄二
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

「保健と食と栄養」のうち、「子どもの食と栄養」の内容を7回で講義します。効率的に授業を進めるために、授業の内容を記載したプリントを配布して、それに沿って進めます。プロジェクターも使用します。

授業の到達目標

保育士として必要な「子どもの栄養の基礎知識」と「保育士として食育に取り組むことができる実践力」を身につけることがこの授業の到達目標です。具体的な目標としては①子どもの体の発育や摂食能力・食習慣の発達、②食品の成分や栄養素、③乳児期、離乳期、幼児期の栄養と発達の特徴 ④食育の理論と進め方 ⑤アレルギーの子どもへの支援などを学びます。その力を踏まえて、保育士として、子どもと保護者に対して食育を実践するための力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

授業内容を記載したプリントを配布しますので準備学修・事後学修に活用してください。ふだんの自分自身の食生活についても見直すとともに、栽培体験や食事を作ったりすることにも取り組んで下さい。

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

筆記試験を実施します。

参考図書等

子どもの食と栄養(建帛社) (講義では使用しません。)

その他(受講上のアドバイス等)

授業の合間や終了後に質問をお受けします。

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など (授業の中に試験を含まない場合は、16 時限目が試験となります)
1	7/25	
2	7/25	
3	7/25	
4	7/25	
5	7/26	
6	7/26	
7	7/26	
8	7/26	(ここまで 上野善子先生 ご担当)
9	8/18	第1章 子どもの健康と食生活の意義
10	8/18	第2章 栄養の基本概念と栄養素の働き
11	8/18	第3章 子どもの発育・発達と栄養
12	8/18	第4章 授乳期の意義と食生活
13	8/19	第5章 離乳期の意義と食生活
14	8/19	第6章 食育の基本と内容
15	8/19	第7章 子どものアレルギーの基礎と対応
試		9～15についての試験

28 年度 特例講座シラバス

保育士資格取得特例講座

授業科目名	Ⅳ 乳児保育 ①～⑮
担当講師名	原田 明美
PowerPoint	使用する

授業概要と方法

乳児保育が社会で果たす役割や、0歳から3歳前半の発達の特徴やあそびの内容、保育者の役割、乳児保育で大切にしたいことなどを学びます。

授業の到達目標

人間形成の基礎である乳児期は、その後のどの発達時期と比べてみても一番目覚ましい発達を遂げる時期です。この乳児期の発達段階に合わせた保育ができるように基礎的な知識を理論と保育の事例から学びます。また教材研究等の実技を行い具体的な技能も高めていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

参考図書などを読んでください。

評価方法:(筆記・レポート・作品提出、日常評価等)

グループ討論での姿勢・授業態度・筆記試験を合わせて評価します。

参考図書等

「子どもとつくる0歳児保育」「子どもとつくる1歳児保育」「子どもとつくる2歳児保育」ひとなる書房

その他(受講上のアドバイス等)

この授業は、演習ですので、乳児保育を実践する力を培うため、グループ討論、教材研究とその指導法も学びます。

授業計画

回	日	時限ごとの講義概要など (授業の中に試験を含まない場合は、16時限目が試験となります)
1	7/27	オリエンテーション
2	7/27	0歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
3	7/27	0歳の発達と遊びⅡ (乳児保育の内容と方法も含む)
4	7/27	0歳の発達と遊びⅢ (乳児保育の内容と方法も含む)
5	7/28	1歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
6	7/28	1歳の発達と遊びⅡ (乳児保育の内容と方法も含む)
7	7/28	1歳の発達と遊びⅢ (乳児保育の内容と方法も含む)
8	7/28	2歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
9	7/29	2歳の発達と遊びⅡ (乳児保育の内容と方法も含む)
10	7/29	2歳の発達と遊びⅢ (乳児保育の内容と方法も含む)
11	7/29	3歳の発達と遊びⅠ (乳児保育の内容と方法も含む)
12	7/29	乳児保育が社会で果たす役割
13	8/1	乳児保育での保育者の役割・乳児保育のこれまでとこれから
14	8/1	乳児保育の保育記録と保育課程Ⅰ
15	8/1	乳児保育の保育記録と保育課程Ⅱ
試		試験